

松伏町総合振興計画審議会 松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
第2回合同会議 議事録

会議名称	松伏町総合振興計画審議会 松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 第2回合同会議
開催日時	令和5年5月23日(火) 17時00分から19時00分
出席者	<p>【総合振興計画審議会委員】(敬称略) 元埼玉県職員(審議会会長):梅山 洋一 松伏町都市計画審議会 会長(審議会副会長):井上 桂一 公募町民:佐藤 夏帆 公募町民:中井 美咲 松伏町農業委員会 会長:山崎 久俊 松伏町民生委員・児童委員協議会 会長:明戸 恵子 吉川松伏医師会 副会長:宮里 良乃</p> <p>【まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員】(敬称略) 大正大学地域構想研究所研究員:佐藤 和彦 埼玉りそな銀行越谷支店 支店長:森久保 晶彦 株式会社埼玉新聞社クロスメディア局 局長:小林 義治 公募町民:今井 新吉 特定非営利活動法人親子サポートぽっぽ 代表:大塚 節子</p> <p>【松伏町】 (策定委員会委員) 副町長(策定委員会委員長):鈴木 寛 企画財政課長(策定委員会副委員長):立沢 昌秀 総務課長:目黒 健二 いきいき福祉課長:坂巻 正士 すこやか子育て課長:本多 登 環境経済課長:後藤 秀徳 新市街地整備課長:兵頭 勇 教育総務課長:川村 功 (事務局) 企画財政課主幹:小野澤 智昭 企画財政課主任:平良 敏行 企画財政課主任主事:渡邊 大輔</p>
欠席者	<p>【総合振興計画審議会委員】(敬称略) 松伏町連合自治会長会 会長:石嶋 利夫 松伏町商工会 会長:小島 朗(まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員と兼務)</p>

	<p>松伏町PTA連合会 会長：神谷 敦子</p> <p>【まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員】（敬称略）</p> <p>埼玉県東部地域振興センター 所長：佐々木 亨</p> <p>越谷公共職業安定所 所長：赤羽 章</p> <p>公募町民：山崎 純佳</p>
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 報告事項</p> <p>（1）松伏町総合計画審議会及び松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会合同運営要綱について</p> <p>（2）これまでの策定経過について</p> <p>4 協議事項</p> <p>（1）松伏町第6次総合振興計画基本構想（案）について</p> <p>5 その他</p> <p>（1）今後のスケジュールについて</p> <p>（2）総合振興計画とデジタル田園都市構想総合戦略との一体的策定について</p> <p>6 閉会</p>
議事録作成者	企画財政課総合政策担当 主任主事 渡邊 大輔
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・別紙資料1 松伏町第6次総合振興計画（序論、基本構想案） ・別紙資料2 第5次総合振興計画との施策体系新旧比較表 ・別紙資料3 松伏町第6次総合振興計画 検討状況 ・別紙資料4 松伏町第6次総合振興計画基本構想（素案）の概要 ・別紙資料5 スケジュール（案） ・別紙資料6 総合振興計画とデジタル田園都市構想総合戦略との一体的策定について

発言者	発言内容・決定事項
1 開会	
2 会長あいさつ	

3 報告事項

発言者	発言内容・決定事項
	（1）松伏町総合計画審議会及び松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会合同運営要綱について
事務局	（資料に基づいて事務局から説明。）
	・意見、質問はなかった

(2) これまでの策定経過について	
事務局	・次第の4ページ及び5ページについて、資料に基づき事務局から説明。
委員	・地区別懇話会について、139名の中に複数回出席している方はいるか。
事務局	・複数回出席している方もいる。

4 協議事項

発言者	発言内容・決定事項
(1) 松伏町第6次総合振興計画基本構想(案)について	
事務局	<p>(資料に基づいて事務局から説明)</p> <p>資料1、2、3、4を用いて、以下の点を説明。</p> <p>資料1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1章1. 第6次総合振興計画の策定にあたってについては、計画策定の趣旨や基本指針等について説明した。 ・第2章基本構想については、将来像やまちづくりの基本理念等について説明した。 <p>資料2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5次総合振興計画との施策体系新旧比較表については、各大綱や大項目などの詳細について、大綱ごとに第5次総合振興計画からの変更点などを踏まえて説明をした。 <p>資料3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松伏町第6次総合振興計画検討状況については、将来目標人口における国の人口推計フレームを基に算出した推計とそれに対する将来目標人口の記載について説明した。これまでの土地利用は引き続き継続しつつ、新たに3か所の土地利用検討エリアの開発や子育て支援、学校教育、福祉の充実、企業誘致やシティプロモーションの推進、公共交通施策の充実などの施策を実施した際の施策効果を想定した場合は、2033年の将来目標人口は28,000人となり、今後も人口減少幅が緩やかになると説明した。 ・また、今後のまちづくりの課題等について説明した。 <p>資料4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松伏町第6次総合振興計画基本構想(素案)の概要については、町の将来像や将来目標人口のほか、土地利用構想図について、地区別町民懇話会時からの変更点を説明した。
会長	・事務局より説明があったが、意見・質問はあるか。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用構想図について、松伏の中心は浦和野田線と東埼玉道路の結節点という風に見える。 ・土地利用検討エリアについては凡例がない。 ・金杉地区の北部地区に拠点の赤い丸印があつて、役場エリアに赤い丸印がないのはなぜか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・核都市広域幹線道路については、国の中で検討が始まっており、具体的には、首都高から東進という形で、埼玉の第二産業道路から東北道まで持っていこうということになっている。また、西側は関越道ではなく国道254号線までという話になっており、構想図内の矢印はそこから派生したものかと思う。地下鉄8号線も30年前から要望しているものであり、核都市広域幹線道路と同様、かなり長期に渡る話であるが、地下鉄8号線と併記して同じように土地利用構想図に記載することはよいことだと考える。 ・東埼玉道路の整備については、各市町から昨年12月にBRT（バス専用レーン）の要望を出しているが、松伏町にとっては道の駅の拠点としたバスターミナル等の方が、地下鉄8号線と比較して中期もしくは短期的にみた場合の課題ではないか。そういったことを踏まえると、資料2の5ページの大項目3の公共交通関係に記載しているBRTについて、もう少しレベルを上げるか、事業を詳しく書き込んでもよいのではないか。
企画財政課長	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用構想図について、北部拠点は第5次総合振興計画の時に初めて赤い丸印を付けて土地利用に入れた経緯がある。役場周辺の位置づけ等については、エローラも含めて中心部をどう考えるか検討したい。 ・資料2の5ページ大項目3公共交通の項目のBRTの格上げについては、地下鉄8号線など様々なプロジェクトがある中、目標年次として一番近いのは東埼玉道路とそのBRTであると思われる。意向調査の結果や地区別懇話会等でのご意見を振り返ると、公共交通に対する期待値が高いが、公共交通といっても、地下鉄8号線に対する要望から日常の通勤通学に対するバス網の整備、バス停に行くまでの距離等、広い分野の要望がある。これらを踏まえて「持続可能な公共交通の整備の拠点づくり」という大項目を掲げ、にぎわいを創出するための道の駅を拠点に、公共交通のハブ化を検討し、これが実現すれば東埼玉道路のBRTを活用して都内にも移動できる。既存のバス網についても発着が可能となれば通勤通学にも活用できる。こういった趣旨で、「公共交通の拠点づくり」の小項目を提案させていただいた。格上げについても庁内で検討させていただきたい。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の方においては、BRTなどの言葉が聞き慣れない方もいるため、用語の説明をお願いしたい。
新市街地整備課長	<ul style="list-style-type: none"> ・BRTとは、バス・ラピッド・トランジットの略で、バス高速輸送システムという意味である。富山や宇都宮等では鉄道のパターンがあるが、そのバス版を想定しており、軌道を持たず、専用レーンを使用したバスでの大量輸送を検討している。東埼玉道路の自動車専用道路の下に整備できないか要望を出しており、境町がバスの自動運転の実証実験を行っていることを参考に、できたら自動運転も視野に入れた構想を検討している。

	<ul style="list-style-type: none"> 東埼玉道路は、八潮市の八条と外環道路が交差する場所が起点となっている。そこを起点にレイクタウンを通り、現在吉川の川藤で道路が止まっている。最終的に都市計画決定がされているのは、4号バイパスの豊野工業団地の交差点までが一般道路として計画されている。吉川の川藤から松伏町の田島の浦和野田線と交差するところまでの区間については、令和7年の春頃開通予定である。令和2年に外環道から交差点までが自動車専用部となり、NEXC Oが整備してそこまで高速道路を開通させる予定であるとの発表があった。高速道路部分は現在2,000億円の予算がついており、高速道路の部分に絡めて八潮市の交差点部分にパーキングエリアとスマートインターの整備を進めている。最終的には圏央道に接続して、高速道路網として完成させる構想を周辺自治体では持っている。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> 資料2の5ページ大項目「水と緑のネットワークの形成」中項目1「公園・緑地の整備充実」に赤字で「③公園・緑地の適正管理」が追加されているが、「②公園・緑地の管理充実」と何が違うのか。
新市街地整備課長	<ul style="list-style-type: none"> 現行計画で「管理・充実」だったものが適正管理になったのは、既存の公園のリニューアルについて、策定した公園の長寿命化計画に沿って進めていくという意識の表れである。
企画財政課長	<ul style="list-style-type: none"> 内容を精査して一本化すべきかどうか、改めて検討させていただく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> リーディングプロジェクト（3）魅力発信とにぎわいづくりプロジェクトの東埼玉道路の道の駅について、若い人が集まり話し合いもあったが、今後様々な道路が開通する中で道の駅は大事だと思うがどのように考えているのか。
企画財政課長	<ul style="list-style-type: none"> 資料3のリーディングプロジェクトにも記載したが、総合振興計画では全分野を網羅する反面わかりにくさもある。そのため、今後10年松伏町は何に力を入れていくのかなどのわかりやすさを出すため、表現方法も含めて4項目を提案している。 「魅力発信とにぎわいづくりプロジェクト」については、町の意向調査や地区別懇話会では多くの意見をいただいている項目になるかと思う。現在、松伏町は情報発信が弱い部分があると考え、改めてリーディングプロジェクトとしている。 さらに町の賑わいはどこなのかという視点においては、賑わいと交通の拠点というのは表裏一体ではないかと考えている。例えば、公共交通を利用する際に、待つ場所や休む場所がないため、そういった問題の解決策の一つとして、賑わいや公共交通の拠点、シティプロモーション的な情報発信の拠点づくりをリーディングプロジェクトとして位置付けてはどうかという趣旨である。 東埼玉道路についても、開通した際の交通量によって道の駅の収支は大きく動くため、そういった交通量などの状況を勘案しつつ、併行して道の駅や公共交通の拠点についても検討していきたい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料2の3ページ、大項目4「地域コミュニティの推進」の中項目2「自治会活動の活性化の促進」の小項目①「自治会活動への参加意識の啓発」とは具体的にはどのようなものを考えているのか。
総務課長	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の解散や脱退が増加傾向の中で、自治会未加入者に対して、活動内容等を令和3年までは広報等に掲載してお知らせしていたが、コロナ禍の影響により自治会の活動が下火になっている状況である。活動が活発化すればまた皆様に周知したいと考えているが、まずは、連合会長が集まる会議などで、実際に自治会に何が求められているのかなどの生の声を聞いて施策を展開していきたいと考えている。 自治会の支援については、現在各自治会や連合には運営補助費があり、祭りの開催の際には助成金を出している。助成金の使途や内容についても今後検討していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインを決めることは難しい部分があると思うが、資源ゴミの集配についても、自治会に入らなくても2軒あれば集配してくれるのが現状である。自治会やコミュニティの中でも相反している部分があるため、啓発や支援をする中で指導をお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 自治会に入らない人や辞める人が多い状況である主な原因は自治会に入ってもメリットがないことであると考えている。意味が無いとは言わないが、自治会に入って良かったと思えることが少ない。良かったと思える価値を見出せば自治会に加入すると思う。 また、例えば普段歩いていて危険な場所などを地域の方と情報共有する場所がないと感じている。現在、コロナが終息しつつある中で、地域や子供会で夏祭りを開催したいなどの状況が出てくると思うが、習志野市のように地域担当制をつくり、例えば雨の時に職員にボランティアで声掛けをしてもらうことで、そういったタイミングで町民の方が町に対する要望を伝えることができれば、自治会に加入する人も増えるのではないかと考える。
総務課長	<ul style="list-style-type: none"> ゴミ問題や自治会の活性化について意見いただいたが、庁内で検討してより良いものにできるよう努力したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援について、松伏町では第一にあげている訳だが、子育て相談支援センターのように、子育ての相談が気軽にできる場所が少しずつ増えるといいと感じている。 若い世代が松伏町でずっと住みたいと思える魅力は何かあるか、若い委員である佐藤委員と中井委員に意見を伺いたい。 合わせて、松伏町ならではの学校教育も重要であるため、こういった施策を考えているか伺いたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 自分を含めて、学生の多くは交通の便が悪いと思っていると思う。しかし、バスを増やしたところであまり状況が変わると思えない。電車を通すのが難しいのは承知の上だが、もっと交通を重視しないと若い世代は町から離れてしまう。

委員	・町外の学校に通学しているが、交通の便が悪いので町に住み続けたいとは思わない。
委員	・ミニまつぶしなどのイベントや緑の丘公園があるので子育てには良いと思う。
委員	・結婚して松伏町に戻ってくる人も多い。今の若い人の意見を聞いて良かった。
会長	・リーディングプロジェクトについて、役場だけでできることではないため、地域のマンパワーが必要である。このままでは10年後には大変なことになると思うがどう考えているか。
企画財政課長	・例えば防災については、これまでは行政である程度カバーできていたが、これだけ大きな自然災害が頻発すると行政だけでなく、地域や自治会など、多くの方が同じ意識を持って協力をしないと難しい時代となってきている。これは、公共交通や子育て支援などについても、行政だけでは対応しきれない部分もあり、NPOや専門家の知識を借りながら進めていく必要がある。
委員	・松伏ならではの学校教育とはどのようなものなのか。
教育総務課長	・資料2の1ページ大項目3「特色ある学校教育の推進」について、人口減少社会の中、子どもたちが学校に通いたいと思うことは、大人になった時にその学校に通わせたいと思えることに繋がってくるため、定住化の促進の施策とも考えている。平成29年から、金杉小学校では小規模特認校制度を実施しており、ここ数年、着実に増えてきている状況であり、町外から金杉小学校に通いたいと希望し、住所を変更している家庭もある。今回の項目の変更については、それぞれの学校の良さを活かしながら充実した学校教育をこれまで以上に推進していくためである。町の教育環境においては、ICTの活用や推進により、学力テストもパソコンを使用するなど、他市町村よりも進んでいる部分があるという状況である。

その他

発言者	発言内容・決定事項
(1) 今後のスケジュールについて	
事務局	(資料に基づいて事務局から説明。)
(2) 総合振興計画とデジタル田園都市構想総合戦略との一体的策定について	
事務局	(資料に基づいて事務局から説明。) ・第6次総合振興計画と一体的に策定をする「次期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の現在の検討状況について説明した。
会長	・事務局より説明があったが、意見・質問はあるか。
	・意見、質問はなかった
閉会	

